

雜報

●會員動靜

任陸軍一等軍醫

陸軍二等軍醫從七位

岸本宗治郎

陸軍二等軍醫從七位勳六等

天田勘七

任陸軍一等軍醫

任陸軍三等軍醫

任陸軍三等軍醫

任陸軍三等軍醫

任陸軍三等軍醫

岡山衛戍病院附陸軍一等軍醫

岸本宗治郎

免本職補步兵第一聯隊附

步兵第七十聯隊附陸軍一等軍醫

南川義一

免本職補工兵第四大隊附

大阪砲兵工廠附陸軍一等軍醫

天田勘七

免本職補步兵第三十三聯隊附

陸軍三等軍醫

野田榮橘

補大阪衛戍病院附

補步兵第二十聯隊附

陸軍三等軍醫

岸本春榮

補姫路衛戍病院附

陸軍三等軍醫

石井生夫

補岡山衛戍病院附

陸軍一等軍醫

森本末吉

陸軍一等軍醫

守山貞一

陸軍一等軍醫

藤川喜人

陸軍一等軍醫

南川義一

陸軍二等軍醫

滋野井至孝

陸軍一等軍醫

杉山龜之助

陸軍一等軍醫

平野林

陸軍一等軍醫

野上尙志

陸軍一等軍醫

長田祖村

陸軍一等軍醫

藏本貢

從七位

荒木蒼太郎

岡山醫學專門學校教授

從七位

藏本貢

從七位

荒木蒼太郎

(九月七日)

朝鮮總督府道慈惠醫院醫官 三宅 助 一

任朝鮮總督府道慈惠醫院醫官

敘高等官七等

(九月十二日)

陸軍一等軍醫 平野 林

補陸軍士官學校附同校本科教官

陸軍一等軍醫 藤井 義 熹

補工兵第十七大隊附

野間軍醫長海軍軍醫大尉 藤田 秀 三郎

免本職

海軍軍醫大尉 藤田 秀 三郎

待命被仰付在スヘシ

陸軍高等官六等

琦玉縣技師從七位 勅使河原 文

(九月十九日)

敘正七位

從七位 岸本 宗 治郎

敘正七位

從七位勳六等 天田 勘 七

任陸軍二等軍醫正

陸軍三等軍醫正正六位勳六等功四級 上山 喜 明

任陸軍一等軍醫

陸軍二等軍醫從七位 八井 田 茂 實

任陸軍一等軍醫

陸軍二等軍醫從七位 寺坂 幸 太郎

步兵第十三聯隊附陸軍一等軍醫 寺坂 幸 太郎

免本職補獨立守備步兵第四大隊附

山口衛戍病院附陸軍一等軍醫 守山 貞 一

免本職補步兵第十三聯隊附

輜重兵第十一大隊附陸軍一等軍醫 松原 愛 次郎

免本職

善通寺衛戍病院附陸軍一等軍醫 八井 田 茂 實

免本職補輜重兵第十一大隊附

朝鮮憲兵隊司令部附陸軍二等軍醫 大屋 音 市

免本職補朝鮮軍醫部部員

第四師團軍醫部部員陸軍二等軍醫 平井 義 雄

(九月二十日)

免本職補岡山衛戍病院附

勳等 賜 金

瑞五等 六二〇

瑞五等 七五〇

瑞五等 七五〇

旭六等 八〇〇

旭日中 一、六〇〇

旭日小 二、一〇〇

陸軍官等位勳功 氏 名

一等軍醫從六位 矢澤 弘 水

一等軍醫正七位 野田 諦 俊

一等軍醫正七位勳六等 守山 貞 一

二等軍醫從七位 大內 健 太郎

二等軍醫正從五位勳三等功五級 橘 久 三郎

三等軍醫正從六位勳四等 荻本 快 吉

(九年十一月二日)

○西川義英君 歐洲留學中の同君は目下左記の處に寓居せらる

Bei Hofrat Robert Lemp

Favoritenstr. N. 20 1/2

Wien Oesterreich.

○足高萬太郎君 は今般神戸市筒井町高橋醫院に勤務せられたり

○菱田昌雄君(舊姓川中) は今般本縣吉田郡津山町岩本醫院に勤務せられたり

○山下兼澄君 は本年岡山醫學專門學校卒業後縣立鹿兒島病院外科に勤務せられたり

○藤本秀次君 は今般岡山醫學專門學校附屬醫院を辭し當市石本外科醫院に勤務せられたり

○小野獻吉君 豫て東京順天堂病院に於て研究中なりし同君は今般岡山醫學專門學校附屬醫院助手を命せられ皮膚科に勤務せられたり

○畠中敏郎君 當市石本外科醫院を辭せられたる同君は今般岡山醫學專門學校附屬醫院助手を命せられ皮膚科に勤務せられたり

○美木俊雄君 は豫て兵庫縣赤穂町に於て開業し居られしか今回開業を中止し歐米留學の準備として北里研究所に入り研究し來年二、三月頃先づ米國に向て出發せらるる豫定なり

○石原廣四郎君 曩日陸軍を辭せられたる同君は九州帝國大學醫學部に於て研究し居られしか今般姫路市坂元町に於て開業せらるる筈にて目下其準備中なり

○小西例一君 は今回尼ヶ崎市南川醫院を辭し郷里愛媛縣北宇和郡岩松町に於て開業せられたり

○沖野勝治君 は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院外科に勤務し居られしか今般辭職本縣和氣郡伊里村に於て開業せられたり

○村瀬達三君 は豫て岡山醫學專門學校附屬醫院皮膚、泌尿器科に勤務し居られしか今回辭職當市天瀬に於て開業せられたり

○竹本勇藏君 は豫て大阪市緒方病院に勤務し居られしか今般同院を辭し廣島縣豊田郡木ノ江町に於て開業せられたり

○松井篤二君 曩日陸軍を辭せられたる同君は今般東京

市外池袋に於て開業せられたり

○横田豊治君 既記の如く岡山醫學專門學校附屬醫院小兒科を辭せられたる同君は今回愈豐橋市清水町(新停車場通)に於て開業せられたり

○山崎磐君 は豫て日本赤十字社大阪支部病院産婦人科及同支部産婆養成所に勤務し居られしか今回其職を辭し大阪市西區八幡屋町に於て開業せられたり

○山本敏晴君 は豫て京都府綴喜郡井手村に於て開業し居られしか今回東京府澁谷町字下澁谷に移轉せられたり

○清水桂次郎君 は今般東京市外下落合五三五に移轉せられたり

○佐藤薰君 は今回愛媛縣宇摩郡土居村に移轉せられたり

●學位論文審査の要旨 本年二月十七日醫學博士の學位を授與せられたる本會々員岩野俊治、原正平の兩君、本年三月十六日授與せられたる久保信之、菅忠芳兩君及び同年三月二十二日授與せられたる高祖敏雅君の論文審査の要旨は左の如し

岩野 俊治君

主論文

鐵ノ新陳代謝ニ關スル肝臟及脾臟ノ機能ニ就テ

著者ハ脾臟チ有セル家兎及之ヲ摘出セル家兎ニ就キ平常時及饑餓時ニ於テ肝靜脈血、門脈血、下大靜脈血ノ鐵含有量及赤血球數ヲ測定シ左ノ如ク決論セリ

(一)脾臟チ有スル普通ノ家兎ニアリテハ肝靜脈血ニ比シ一定血量ノ赤血球數ハ少ク其ノ鐵含量モ概シテ乏シキ場合多キモ下大靜脈血ニ比シテハ赤血球數ハ殆ト全ク差異ナキニ拘ラス鐵含量ニ富ミ又肝靜脈ノ一定赤血球數ノ鐵含量ハ門脈下大靜脈耳靜脈血ヨリ多シ

(二)脾臟チ摘出シタル家兎ニアリテハ肝靜脈ハ門脈ニ比シ一定血量ノ鐵含量ハ概シテ大ナリ是レ脾臟チ有スル普通ノ家兎ト主トシテ異ナル所ニシテ又肝靜脈ニ於ケル一定赤血球數ノ鐵含量ハ門脈血ヨリ多シ又血球數ノ關係ハ脾臟チ有スルモノト略ホ同一ニシテ肝靜脈血ハ門脈血ニ比シ少シ

(三)肝臟ニ於テハ生理的ニ血色素ヲ分解スルノミナス又生理的ニ血色素カ新生セラレ肝臟ヨリ射出スル肝靜脈血ニ與ヘラル、モノト認メ得ヘシ而シテ脾臟モ少クトモ間接ニ鐵ノ新陳代謝ノ上ヨリ肝臟ニ於ケル血色素ノ新生ニ關與シ脾臟摘出ニヨリ起ル血色素ノ障害ニ對シテハ肝臟ハ門脈血ニ比シ多クノ血色素ヲ代償性ニ肝靜脈血ニ與フ

(四)普通ノ家兎及脾臟チ摘出シタルモノハ門脈、肝臟脈、下大靜脈、耳靜脈中門脈血ハ最モ多ク赤血球ニ富ミ普通ノ家兎ノ飢餓狀態ニアリテハ肝臟脈ノ赤血球數ハ門脈血ヨリ多シ

主論文

原 正平君

蓆酸、枸橼酸及酒石酸鹽ノ働キ方ニ關スル實驗的研究 (獨文)

京都帝國大學醫學部紀要第三卷第二號

蓆酸、枸橼酸及酒石酸ハ共ニ「カルチウム」ヲ沈降セシム而シテ是等ノ動物ニ對スル毒性ハ單ニ「カルチウム」沈降ノ性質ニ基クモノナルヤ或ハ他ニ各酸ニ特種ノ作用アリテ之ニ加ハルモノナルヤ議論アリ著者ハ二十日鼠ニ就キ其致死量ト之ニ對スル「カルチウム」ノ解毒力トヲ比較實驗シ其ノ大小カ是等三物質ノ「カルチウム」沈降性ノ強弱ト一致セサルヲ見其ノ毒性ノ「カルチウム」沈降性ノミニ由ルニ非サルヲ推論セリ之ニ反シテ著者ハ是等三物質ト「マグネシウム」トノ併用試驗ニ於テ「マグネシウム」ノ麻醉作用ヲ増進スルコトヲ見然カモ其ノ強弱ハ各物質「カルチウム」沈降性ノ大小ト一致スルコトヲ確メタリ

主論文

久保 信之君

(一) 黒水熱發病論

動物試験的竝ニ病體解剖的研究

臺灣地方病及傳染病調査委員會發行 久保 信之 著

(二) 續黒水熱發病論

動物試験的竝ニ病體解剖的研究

臺灣醫學會雜誌第二百十號別刷 一瀬 長雄 伊波 普助 共著

前後五例ノ黒水熱剖檢ヲ行ヒ其ノ材料ニ就テ體腔ヲ遂ケ更ニ諸方面ニ亘リテ本病ニ關スル多數ノ動物試験ヲ施シ兩者ノ所見ヲ根據トシテ本病ノ病理ヲ攻究シタリ即チ著者ハ著者ノ所謂黒水熱胃腸炎ノ常在ニシテ且重要意義アルヲ唱導シ之ハ濃厚或ハ過剩膽汁ノ腸内灌注ニ因スル炎症現象ナリト論セリ而シテ斯カル胃腸壁ヨリ膽汁成分吸收セラレ之レ赤血球ニ作用シテ之ヲ溶解シ其ノ爲ニ生セル遊離血色素カ腎臟ヨリ排出セラレ所謂黒水ヲ現スルニ至ルト主張セリ其ノ他著者ハ本病ニ於ケル諸般ノ病的機能ニ就テ詳説スル所アリタリ

菅 忠芳君

主論文

Ueber den Einfluss der Brenztraubensäure auf die experimentelle Acidosis und Glycosurie.

京都帝國大學醫科大學紀要第二卷第三號別刷

菅 忠芳 著

著者ハ「ブレンツトラウベン」酸ノ實驗的過酸症及糖尿ニ對スル影響ヲ知ラント欲シ飢餓ニアル家兎及ヒ之レニ「フロリジン」ヲ與ヘタルモノニ「ブレンツトラウベン」酸ヲ「ナトリウム」鹽トシテ與ヘ尿中ニ排泄セラル、「アツエトン」體及葡萄糖ヲ定量シ尙同時ニ血液ノ含糖量ヲモ定量シ何レノ場合ニ於テモ尿中ノ「アツエトン」體葡萄糖竝ニ血液ノ含糖量共ニ増加セルヲ見テ「ブレンツトラウベン」酸ハ恐ラク家兎體內ニ於テ葡萄糖ニ含有セラル、モノナルヘシト決論セリ

尙家兎體內ニ於テ「ブレンツトラウベン」酸ヨリ葡萄糖ノ形成セラル、ニモ

拘ラス「アツエトン」體ノ排洩量ヲ増加スルハ「ブレンツトラウメン」體カ理想上「アツエトアルテヒツト」アルドール「チ經テ」アツエトン「體ニ移行スル可能性ヲ有スル外」ブレンツトラウメン「酸カ飢餓及「ブロリシ」ノ注射ニヨリ著シク衰弱セル家兎ニ對シ毒性ニ働クコトカ斯カル結果ヲ來スニ與リテカアルモノナラント決論セリ

高祖 敏雄君

主論文

生理的及病理的狀態ニ於ケル輸卵管ノ形態學的

研究 (第二報告)

輸卵管ニ於ケル脂肪沈着ニ就テ

京都醫學雜誌第十六卷第七號(大正八年)

剖檢及ヒ手術ニヨリ得タル二百例ノ輸卵管ニ就キ脂肪沈着トソノ年齡的關係局所性及ヒ全身性疾患、妊娠、産褥トノ關係ヲ述ヘ又脂肪顆粒細胞、「ヒヨレスアリン、エステル」ノ沈着、脂肪ノ排洩、脂肪沈着ノ意義及ヒ要約等ニ就テ詳論セリ

●第三回「トラホーム」講習會

財團 法人日本「トラホーム」豫

防協會にては本年十一月三日より同十日まで第三回「トラホーム」講習會を開催する由入會希望者は會費金貳拾圓を添へ來十月二十日までに東京小石川區春日町四十九番地同會に申込むへしと

原著紹介

原著紹介

(雜誌順序不同)

●國家醫學雜誌(第四一五號)

分焼ニ對スル「アルコール」ノ影響 (松村茂秀)

實驗的死亡研究(第二回報告)(承前) (谷賢抱)

死刑囚ノ頭骨及ヒ腦ニ就テ(承前) (原正)

●日本鐵道醫協會雜誌(第七卷第八號)

第一回國際勞動會議ニ於テ決定セラレタル條約案ト現行工場法トノ對照(承前) (古瀬安俊)

「ラゲウム」治療ニヨリテ最モ理想的ニ消滅セル咽喉頭癌腫ニ就テ(掛下玉男)

上水及ビ井水細菌學的檢査ニ就テ (小松茂樹)

再ビ五十%「サリチール」酸「ラノリン」ニ就テ (小山義孝)

●日本學校衛生(第九卷第八號)

女性タルノ惱アル生理的現象竝ニ其影響

女學校學業成績ニ就テノ疑義 (福島尙純)

筋力測定成績ト體力檢査問題 (稻葉幹一)

兒童ノ身長ト兩手ノ長サトノ比較ニ就テ (岡田道一)

學校衛生上ノ二大重要問題 (山田敏一)

●京都醫學雜誌(第一八卷第七號)

破傷風毒素ノ動物體內ニ於ケル攻撃點竝ニ其吸收經路ヲ論シテ破傷破風血清療法ニ及テ (小林六造)

生體色素攝取ト中酸症 (星島壽、吉馴信安)